探究的な学習の在り方に関する研究推進地域

連携中学校区：三次市立布野中学校区

連携地域を構成する学校

学校名	学級数	児童生徒数
三次市立布野小学校	6	51
三次市立布野中学校	4	25

(R3.11.1現在)

１　指導上の課題

研究を進めるにあたり，本学区の強みや課題を発見するためにSWOT分析を行った。分析により明らかになった課題は以下の３点である。

・小規模による人間関係の固定化。
・人口減少，少子高齢化による異年齢とのコミュニケーション機会の不足。
・自ら目的をもって学ぼうとする意欲が低い等の学習態度。

２　研究の概要

（１）研究テーマ及び研究のねらい

本研究のテーマは「対話を通して主体的な学びを深める授業の在り方　ー総合的な学習の時間における評価の在り方に関する研究を通してー」である。研究仮説を「探究的な学習の充実に向け，PBL（プロジェクト型学習）の考え方を参考に，評価の在り方を研究して指導にいかせば，生徒が主体的な学びの力を深め自らの成長を実感し，主体性を高めることができるであろう」とし，後述する資質・能力の1つである主体性の育成をねらいとしている。

（２）資質・能力の設定について

指導上の課題に挙げた内容を受けて，本学区が育成を目指す資質・能力（以下，資質・能力とする）を以下のように設定した。

本学区が育成を目指す資質・能力		対応している資質・能力
コミュニケーション能力	伝える力	知識及び技能
	学びの広がり	思考力，判断力，表現力等
主体性		学びに向かう力，人間性等
自らへの自信		

※主体性は観点別学習評価の主体的に学習に取り組む態度に，自らへの自信は観点別学習状況の評価や評定にはなじまず，個人内評価を通じて見取る部分と対応している。

（３）取組について

【探究的な学習の充実に向けての取組】

始めに，これまでの総合的な学習の時間の活動内容についてPBLの視点から分析を行った。分析により判明した成果としては，小中で連携して系統的な学習を行っていること，地域教材を活用して地域との交流が図れていることの２点があった。課題としては，教師が主導することが多く，生徒による学習の計画・修正の機会が少ないこと，学習内容が育成したい資質・能力と結びついていない部分があること，資質・能力を見取り向上させていくための評価の研究が不十分であることの３点があった。課題を克服していくために，小中連携を行いながら研究を進めた。

【小中連携の取組】

小中で連携して研究を進めていくにあたり，地域教材を活用したコアカリキュラムの見直しを行い，より系統的な総合的な学習の時間の単元計画を開発・実践すること，資質・能力を向上させるにあたり，それを評価するルーブリックを開発・活用することの２点を重点的に研究していくことにした。

取組を組織的に行っていくため，５月に小中合同でPBLについて学び，考えるための研修を行った。研修では，PBLの基本的な説明の後に練習課題として，以前に総合的な学習の時間で行った単元の内容をPBLの考え方をふまえて見直すワークショップを行い，PBLの考え方をどのように単元開発に活かしていくかを体験した。その後も必要に応じて合同研修を行い，単元計画の開発や検討を行ったり，資質・能力を評価するためのルーブリックを作成していったりと小中で連携しながら研究を進めていった。

【資質・能力の評価】

資質・能力を小中すべての教員一丸となって高めさせていくために，資質・能力を定義付け共通のイメージをもてるようにした。その後，資質・能力の定義を基にルーブリックの基本形を作成し，それぞれの学年で単元内容に合わせたルーブリックを作成することで資質・能力の評価を行っていった。ルーブリックは児童生徒に示すことで，教師と児童生徒が共通の評価基準をもつことができるようにした。ルーブリックを基に教師が評価を行うこともあれば，児童生徒が自己評価や他者評価に活用することもあった。

３　実践事例

○布野小学校の実践

○対　象　　第３学年（１学級12名）
○単元名　　めざせアスパラけんきゅうはかせ
　　届けよう！布野の特産品アスパラガスの魅力！
○目　標
　布野町の特産品であるアスパラガスについて，興味・関心をもった問いを設定し，解決していく過程を通して，探究的に学習していくプロセスを学ぶとともに，布野町のアスパラガスの生産金額・生産量・作付面積・生産軒数が年々落ちている現状を知り，自分たちにできることを考え，計画・実行していく活動を通して，資質・能力の育成を図る。

【探究的な学習の充実に向けての取組】

総合的な学習の時間がスタートする本学年は，探究的に課題を解決してプロセスを学んでいくことが必要である。そこで，布野町の特産品であるアスパラガスにテーマを限定し，探究的に学習していく単元計画を構想した。具体的に以下の通りである。

単元は，２つに分かれる。４月～10月に行った「めざせアスパラけんきゅうはかせ」では，自校にあるアスパラガスハウスで実際にアスパラガスを育ててみたり，アスパラガス農家の作ったアスパラガスを食べてみたりする活動を通して，５つの問いを立て

た。そして，それらの問いを解決するため，アスパラガス農家を見学したり，自校で育てているハウスでのアスパラガスの成長を記録したり，選果場へ行って調べたり，各家庭で実際に作っていただいたりするなどして，課題解決に努めた。その後，ポスターや報告文・クイズ・劇などにまとめ，表現したところまでが１つ目の単元である。

10月～３月に行っている「届けよう！布野の特産品アスパラガスの魅力！」の単元では，今までの学習から布野町のアスパラガスの魅力を感じとっている児童に対してショックを与えるため，過去５年間で布野町のアスパラガスの生産金額・生産量・作付面積・生産軒数が減り続けているというデータを提示した。これらを読み取った児童たちからは，「自分たちで布野のアスパラガスをなんとかしたい」「自分たちが呼びかけをして育てる人や買う人を増やしたい」といった発言がでてきて，【アスパラガスのよいところを伝えて，育てる人や買う人をふやす呼びかけの達人になろう】というめあてに決まった。その後は，「買い手をふやすグループ」「育て手をふやすグループ」の２つのグループに分かれて，発表内容や発表方法を考え３月現在も作成中である。新型コロナウイルスの影響もあり現時点で実行することは難しいが，可能となれば，「道の駅 ゆめランド布野」でアスパラガスの魅力を紹介する発表を行う予定である。

【個に応じた指導の充実】

一人ひとりの児童の興味・関心を重視し，体験を通して調べたいことを決定させた。また，グループ活動を取り入れ，リーダーを中心に役割を割り振らせる際，リーダーと事前に打ち合わせをして，仕事内容の割り当てペアを工夫させた。

○布野中学校の実践

○対　象　　第２学年（１学級５名）
○単元名　　職場体験学習・学んだことを発信しよう
○目　標
職場体験学習で，地域産業の発信の中心である「道の駅 ゆめランド布野」を訪れ，実際に現場で働くことで，顧客のニーズや産業について情報を集め，布野の地域的課題を解決するために，地元産業の有効活用について考えたり，地域を活性化するための提案をしたりしていく活動を通して，資質・能力の育成を図る。

【探究的な学習の充実に向けての取組】

本学年は小学５年生のときに布野のお米のパンフレットを作り，道の駅等で配布した実績があり，本年度，道の駅から「布野の特産品を使って，地域を活性化する商品を一緒につくろう！」という熱い想いを受けた。

そこで，小学校での学びと職場体験学習とを関連付け，地域の一員として社会に貢献する活動を通して自らのキャリアについて考えるよう学習を進めていった。

始めに生徒たちは，小学生のときの学習をふまえ，道の駅の役割について調べたり，人気のある道の駅の特徴を調べたりして知識を得ていった。その後に行った職場体験学習では，生徒たちは自らのキャリアを見つめるという本来の目的に加えて，道の駅で現地調査を行うという目的をもち活動を行った。

道の駅の方との打ち合わせを得て，開発する商品がピザに決まり各自でピザを企画して試食会を行った。しかし，このピザは本人たち曰く「美味しくない」とのことだった。そこで生徒たちは，必要に応じてタブレット等で情報を得ながらピザの改善案を立て，第２回試食会を行った。試食会には道の駅の方にも参加していただき，企画したピザは実際に道の駅の通販で商品化されることになった。よりよい商品を目指して行った第３回試食会では広報活動のためメディアからの取材を受け，生徒たちの取組は三次ケーブルビジョンのニュース番組や中国新聞で紹介された。令和４年３月現在では，ピザの紹介動画を作成するなど，生徒たちの探究活動は止まることなく続いている。

【個に応じた指導の充実】

単元の活動を進めるにあたっては，小規模校という特徴を生かし，それぞれの生徒が思い描いた理想のピザを実現できるよう，各自のニーズに合わせて，きめ細やかな指導や支援を行った。

例えば生徒Aは釣りが趣味であり，鮎をテーマにしたピザを企画したいと考えていたが，具体的なイメージをつくることができず悩んでいた。そこで，「鮎はどんな料理で使われているの？」「鮎のピザに合うソースは何？」という個別の問いを投げかけ思考の足場かけをした。また，対話を通して思考を促すことで，材料費を予算内に収めるためにはどの食材を削ったり，鮎の量をどの程度にすれば良いかを考えさせたりした。更に，ピザを試食したときには，調味料の量や焼き加減に注目させることで改良するための視点を与える等，必要に応じて支援を行っていった。

４　研究の成果と課題等

（１）成果

今年度の成果としては，小中学校の教員が共通の目標をもち研究を進めていること。資質・能力を明確にして評価するためのルーブリックを作成したこと。教員が「失敗を恐れず，挑戦してみる」という意識で実践を行っていることの３点が挙げられる。

（２）課題

今年度の課題としては，「知識及び技能」に対応する資質・能力が設定できていないこと，検証結果より到達目標に至っていないと判断できること，ルーブリックの妥当性の検証と，ルーブリックを活用した評価と評価結果の活用についての研究が不十分であることの３点が挙げられる。

（３）今後の改善方策等

今後の改善方策としては，「知識・技能」に対応する資質・能力を新たに設定すること，本年度重点的に取り組んだ「主体性」を中心に分析を進め，原因について仮説を立てながら対策を行っていくこと，ルーブリックを活用した評価と評価結果の活用について，実践と検証を継続しより良いものに修正していくことの３点が挙げられる。

また，生徒の聴き手としての能力を高めることにより，相手の意見に安易に同意することなく，相手の話の，意味や意図を窺いながら，遠慮なく，お互いに分かるまで聴き合うことで学びを深めていけるよう，対話についての研究も進めていきたい。